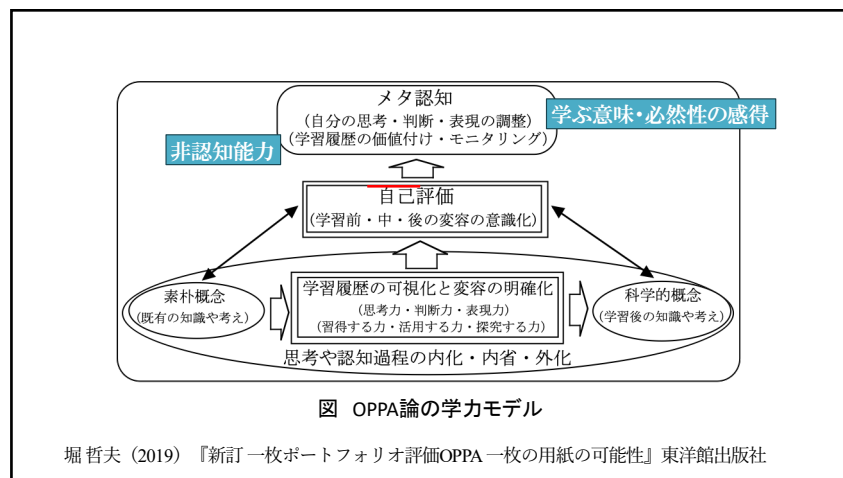




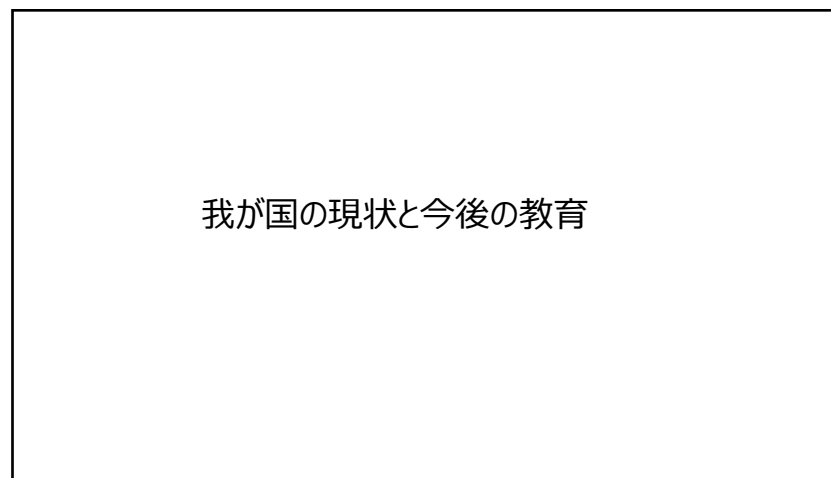
1



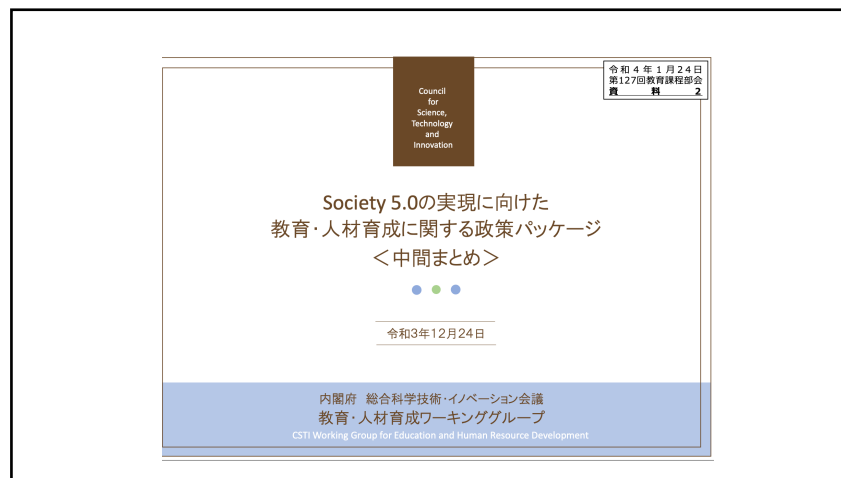
2



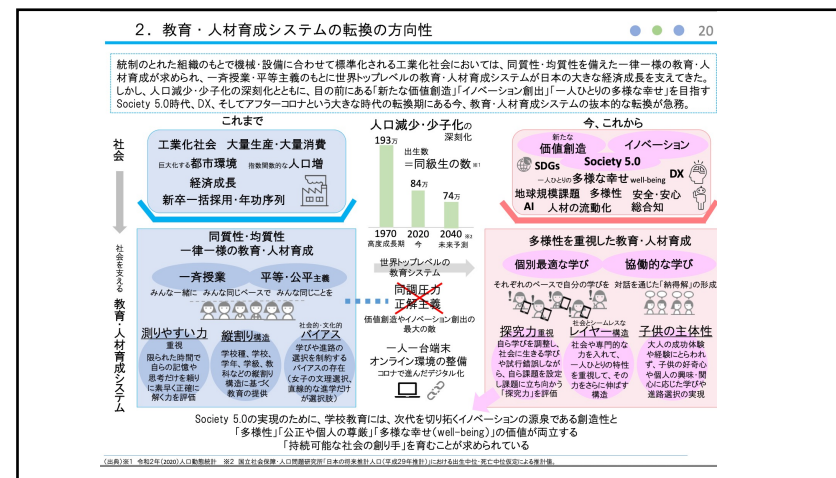
3



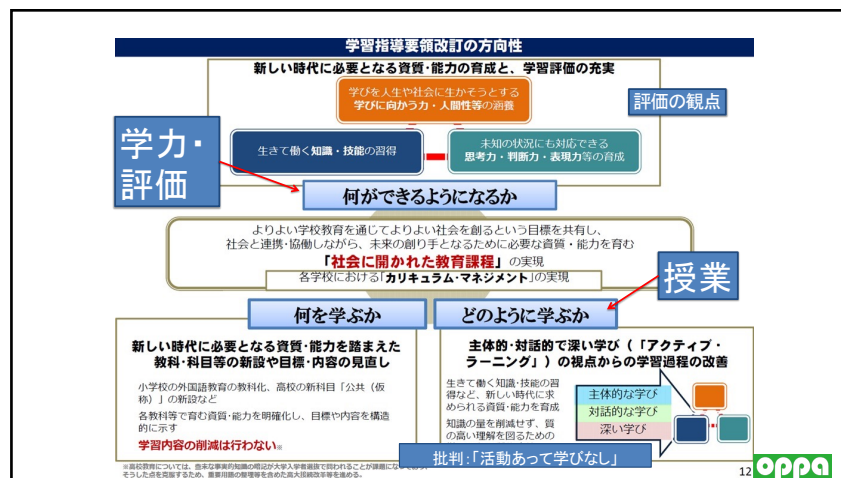
4



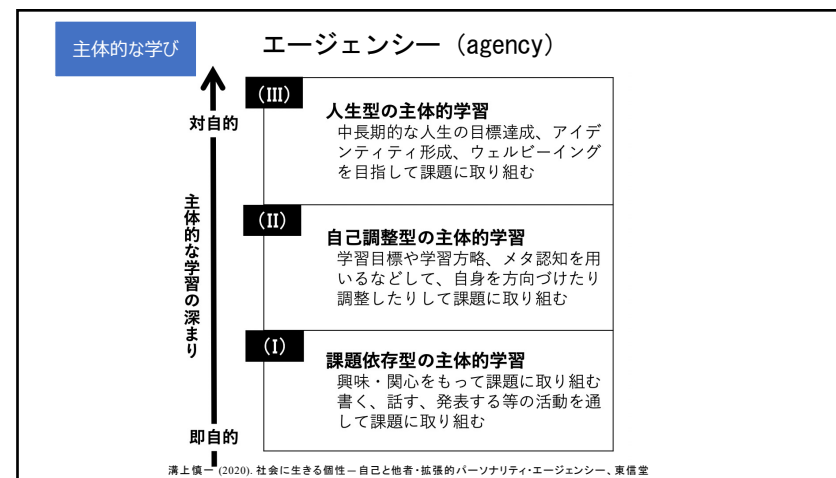
5



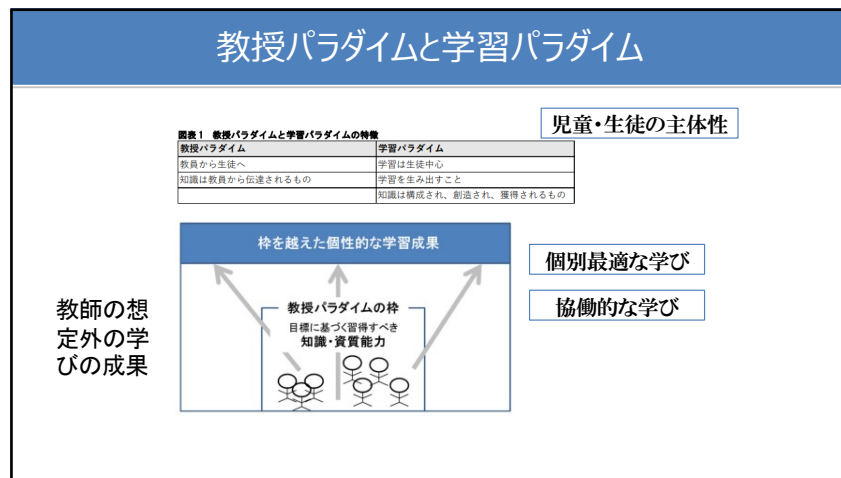
6



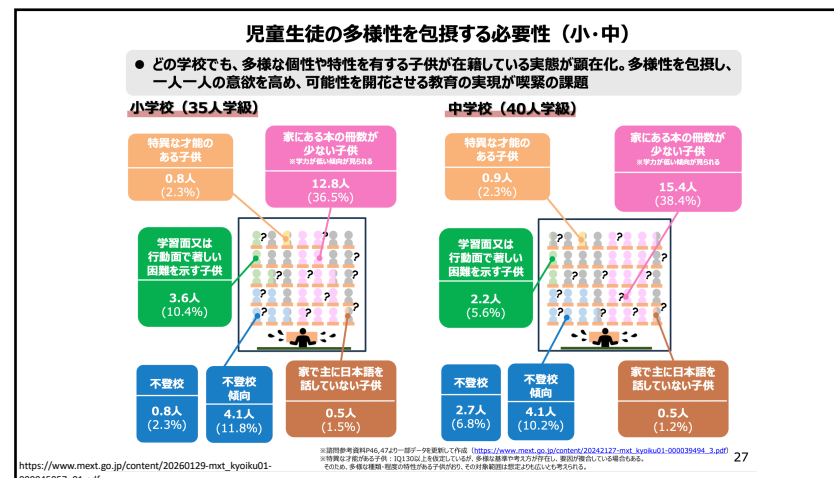
7



8



9



10

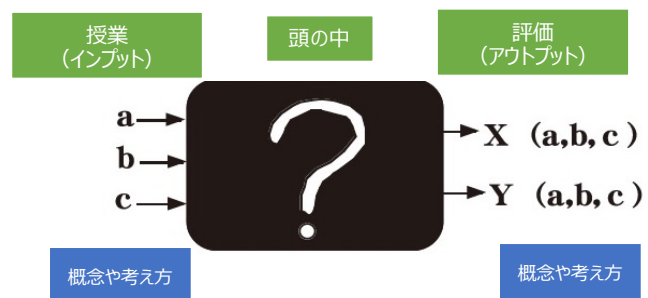
OPPA論で「個別最適な学び」、「協働的な学び」  
「学習者主体の学び」や「探究力の向上」、  
「多様性の包摂」がなせ可能になるのか

11

OPPA論とは  
概念や考え方の形成過程を重視  
OPPシートで  
可視化

12

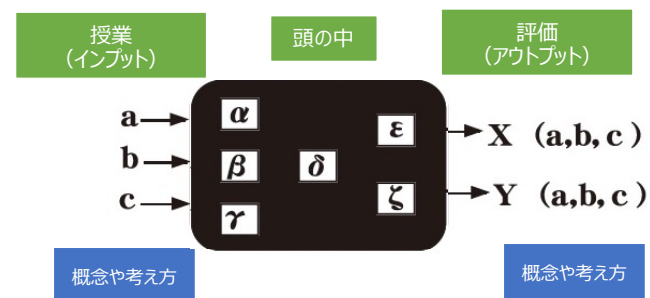
### 概念や考え方の形成過程とは？



見た目じゃわからない生徒の (学びの) 姿

13

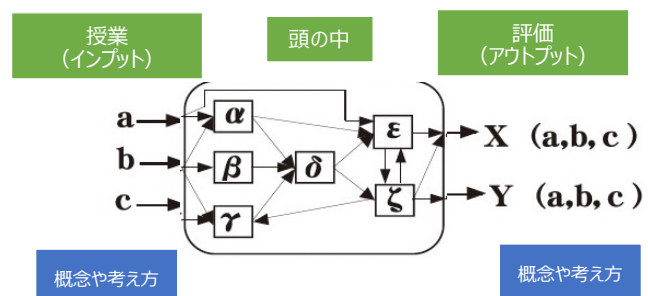
### 概念や考え方の形成過程とは？



見た目じゃわからない生徒の (学びの) 姿

14

### 概念や考え方の形成過程とは？



見た目じゃわからない生徒の (学びの) 姿

15

テスト結果や普段の様子から  
子供の持つ概念や考え方は教師のこれまでの経験から  
想像がつく？

16

19

18

19

20

23

22

24

## 書けないことにはそれぞれ事情がある

- ① 文字そのものを書くのが苦手
- ② 意欲がない  
書きたくない
- ③ 正解を書かねばならない  
でも正解はわからない
- ④ ノートやプリントと異なり、自分ごとを記載するので、慣れていない。

25

## 児童の概念や考え方の変容の評価

【学習をふり返って】

学習全体をふり返ったり、学習前と学習後の自分の考えを比べてみて、思ったり考えたりしたことを書きましょう。

「てこの原理は前から知っていたけれど、身近にまたくさんてこを活用した物があつた。リ、衝動もそれぞれ違ふ。」

「支点、支点、作用点、うっわ、でも位置が違ふ。いままで習った事と普段の生活にも活用したい。意欲的に学習に取り組む事が出来た。」

- 自分の良さや学ぶ意味を見いだせない児童、日頃から自分を否定したり、「こんなことやっても無駄」といった内容のマイナス発言
- 授業を重ねるごとにOPPシートに「意欲的に学習に取り組むことが出来た。」など、「児童の学習意欲の向上」、「学習の仕方や臨み方の変容」、「自分を認める内容」が多くみられるようになった。

山下春美・中島雅子（2016）『教育観の変容とOPPA－経験を重ねた教師の授業改善－』『埼玉大学紀要教育学部』Vol.65, No.1, p.15.

26

## 本質的な問いの例

質問：「本質的な問い」の設定の仕方が難しい。どのようなものが良いのか

- 三角関数とは何か
- 道徳とは何か
- 読むとは何か
- 関係代名詞とは何か
- なぜ国語を学ぶのか
- なぜ理科を学ぶのか
- 考えるとは何か
- 学校とは何か
- 幸せとは何か

27

## 子どもの思考の特徴

|   |                  |
|---|------------------|
| 1 | 生活的概念による思考       |
| 2 | 直感に依存した思考        |
| 3 | 知覚の焦点を限定した思考     |
| 4 | 変化状態に注意を集中した思考   |
| 5 | 直感的な因果関係の推論による思考 |
| 6 | 状況に依存した思考        |
| 7 | 自己中心的思考          |
| 8 | 人間中心的思考          |
| 9 | アニミズムと情動主義的な思考   |

ロバート・S・シーグラール（1992）『子どもの思考』誠信書房、pp117-120.  
R.Driver, : *Children's Ideas In Science*, pp.194-197, 1985, The Open University Press.  
堀 哲夫（1994）『理科教育とは何か』東洋館出版社。

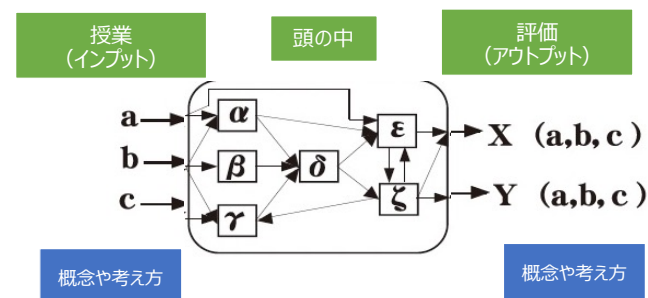
28

## 先生方からの質問

- 毎時間OPPシートへの記述時間を確保することが難しい
- 毎回コメントを書く時間の確保が難しい。コメントは毎時間書いたほうが良いのか。それとも別の方法があるのか。
- OPPシートの記述を見る際、どのようなポイントを意識して見ると良いのか。
- OPPシートを授業づくりにどのように生かせば良いか。
- OPPシートの構成に付け加えてもいいのか
- → (例) 「今日の授業のがんばり具合に丸をつけよう、A B C」をつける欄を設ける。

29

## OPPシートに工夫を加えない。成績には使わない。



見た目じゃわからない生徒の（学びの）姿

30

表1 評価の機能

| アプローチ                                 | 目的                                 | 準拠点                         | 主な評価者 |
|---------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------|-------|
| 学習の評価<br>(Assessment of Learning)     | 成績認定、進級、進学などのための判定(評定)             | 他の学習者。教師や学校が設定した目標          | 教師    |
| 学習のための評価<br>(Assessment for Learning) | 教師の教育活動に関する意志決定のための情報収集、それに基づく指導改善 | 学校や教師が設定した目標<br>学習目標        | 教師    |
| 学習としての評価<br>(Assessment as Learning)  | 自己の学習のモニタリング、および、自己修正や自己評価能力の育成    | 学習者個々人が設定した目標や、学校・教師が設定した目標 | 学習者   |

学習と評価の一体化(資質・能力の育成)

oppa

Earl, L. M. (2003). *Assessment as Learning: Using Classroom Assessment to Maximize Student Learning*, Corwin Press, 26.  
 石井英真 (2013) 「これからの社会に求められる学力とその評価 -『真正の学力』の追求『初等教育資料』東洋館出版社, p.31.

31

## 自己評価による学習改善

学習と評価の一体化

32

[illegible]

## 授業改善の例

指導と評価の一体化

**OPPシートの基本的骨子**

**学習前に記入**

②「今日の授業で一番重要だと思ったこと」、「感想・疑問点」を、毎時間記入  
これにより、授業評価を行う

**学習後に記入**

③学習前・中・後を比較し自分の何がどう変容したのかを自覚

**学習履歴**

**過たと現在、未来へ**

# 小学校5年生 理科 「流れる水のはたらき」

秩父市立荒川東小学校松本尚樹先生の実践

**Before** **After**

思ったこと、考えたこと  
どうして、角度がちがうた"け  
で、石が大きいのか? と思った

児童A

川のちがいがあるのは  
角度が山と平地とちが  
うから (E)

児童B

山 平地

児童C

思ったこと、考えたこと  
川の下の流れる石が小さいのは、水の  
流れが速いからか? と思った (S)

秩父市立荒川小学校松本尚樹先生の実践

37

パフォーマンス課題「A・B・Cの家を守るためには？」



通常は実験をして、まとめや感想などを書いたプリントを提出。  
OPPシートを使うと、子供の理解度が端的にまとめられて書かれて  
いる。疑問も書いてあるので、次の授業で取り上げたり、個別に対  
応できる。

38

**Before** **After**

思ったこと、考えたこと  
どうして、角度がちがうた"け  
で、石が大きいのか? と思った

児童A

川のちがいがあるのは  
角度が山と平地とちが  
うから (E)

児童B

山 平地

児童C

思ったこと、考えたこと  
川の下の流れる石が小さいのは、水の  
流れが速いからか? と思った (S)

秩父市立荒川小学校松本尚樹先生の実践

川の流れて石と  
ぶつかり合っているの  
からかけたこと (E)

今日の授業で一番大切なことを書きましょう。  
石の大きさはなせか小くなる  
石と石とくっつくか? 水の流  
れにのびてくっつくか? (E)

今日の授業で一番大切なことを書きましょう。  
石の大きさはなせか小くなる  
石と石とくっつくか? 水の流  
れにのびてくっつくか? (S)

39

教師が変わる

教師の教育観(教育  
に関する考え方)の  
変容例

40

### OPPA論による教師の教育観の変容例2（高校英語）

| OPPシート活用以前<br>(Before)                                                                                                     | OPPシート活用以後<br>(After)                                                                                                                                                                                 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業が苦しい。授業が生徒の身になっている実感がなく虚しい。楽しい授業にしたいため、毎時間ネタを考えるが限界に。授業1時間すべてを自分一人で何とかしようともがいていた。教師としてこれでいいのか、このまま定年まで月日が流れていくのかと思ひ悩む日々。 | 授業が楽しくて仕方がない。今日の自分の授業がどうだったのか知りたくて、休み時間にOPPシートをむさぼり読み、次の授業が楽しみになった。なぜならOPPシートで次の授業のヒントをもらっているから。躰いていたのはここだったのか、と目から鱗。授業は教師一人でやるのではなく生徒と共に作るものだとわかったOPPシートがあればどの学校、校種に行っても大丈夫。自信回復。教師続けられる！変わったのは教師だった |

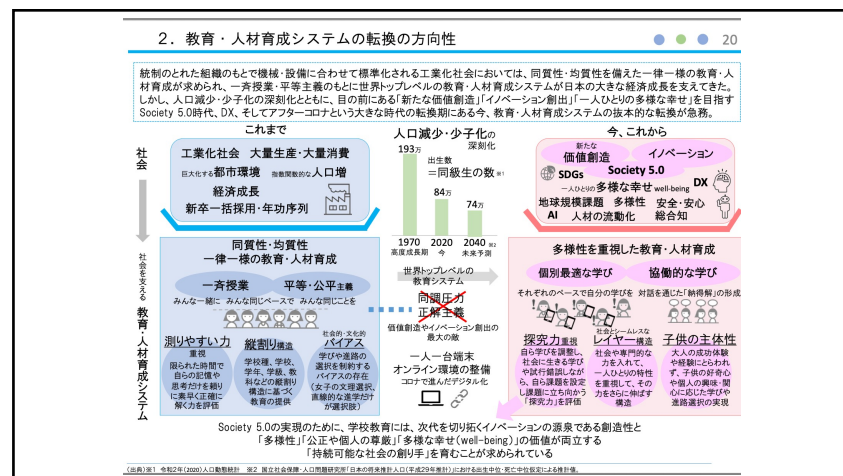
堀 哲夫監、中島雅子編（2022）『OPPAで授業をつくる』東洋館出版社。

41

### OPPAを活用していると 次第に教師の考え方が変わる

| Before                                                                                                                                                                                                   | After                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>限られた授業の時間のなかで、いかに生徒たちに観察、実験などの活動をさせるかを考えていた。そのため、躰きそうな箇所を想定して、支援することで授業を流していくことが生徒の学びを最大限引き出すことにつながると考えていた。また、そこでのレポートなどの成果物から生徒の学びを見取り、把握できていたと考えていた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>OPPシートにより、彼らが学びとして価値を見出した部分を把握することで、根拠をもって支援することができる。その支援が、教師がねらった通りのものにならないこともあるが、新たな生徒の学びを引き出していく。それらをもとにした授業改善をすることで、生徒と教師がともに学びをつくり、生徒が主体となる授業の在り方の1つだと実感できる。</li> </ul> |

42



43



44